

CASBEE-川崎2011年版		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		12081		
スコアシート		G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40			3.1
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能								3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	0.20	
1.3 吸音										
2 温熱環境						3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
3 外皮性能			W			3.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.3	0.25	3.2	1.00	3.0
3.1 屋光利用						1.8	0.30	2.4	0.50	
1 屋光率						1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口								1.0	0.30	
3 屋光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
2 屋光制御					W	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能								3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8
1 機能性				2.4	0.40	2.8	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性				-		-	
2	高度情報通信設備対応					3.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観		居室の天井高2.5m。			4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			1.0	1.00	1.0	0.50	
3	内装計画			3.0	0.30		-	
1.3 維持管理				3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31		-	3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48		-	
1	耐震性			3.0	0.80		-	
2	免震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.33		-	
1	躯体材料の耐用年数	R	劣化対策等級3を確保している。	5.0	0.23		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.09		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.08		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.15		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23		-	
2.4 信頼性				3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり				-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				4.0	0.50		-	
				空地の40%以上確保や舗装面積を10%未満にすることで、暑熱環境を緩和している。				

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建築物の熱負荷抑制				W	H			3.0
2 自然エネルギー利用								3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H			3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H			3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			4.5
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								4.5
集合住宅の評価								4.5
4 効率的運用								-
4.1 モニタリング				W	H			-
4.2 運用管理体制				W	H			-
LR2 資源・マテリアル								2.5
1 水資源保護				W	R			2.2
1.1 節水								1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0
1 雨水利用システム導入の有無								3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無								-
2 非再生性資源の使用量削減								2.4
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R			1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0
1 消火剤				W				-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0
3 冷媒				W				3.0
LR3 敷地外環境								3.2
1 地球温暖化への配慮				W				3.9
ライフサイクルCO2排出率が、一般的建物と同等。								3.9
2 地域環境への配慮								3.0
2.1 大気汚染防止								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0
1 雨水排水負荷低減					R			3.0
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0
3 交通負荷抑制					R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0
3 周辺環境への配慮								2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0
1 騒音								3.0
2 振動								-
3 悪臭								-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制								3.0
1 風害の抑制								3.0
2 砂塵の抑制								-
3 日照阻害の抑制								3.0
3.3 光害の抑制								2.3
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策								2.0
2 近隣の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0

